

青山学院中等部

算数

基本的な問題を幅広い分野から出題します。基本的に独立した問題ですが、枝問のある大問もあります。

国語

あらゆる文章から出題します。知識・語句などは、読解総合問題の中で問い、漢字は独立した問題として出題します。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野からまんべんなく出題します。小問5問を集めた大問と合わせて5題です。

社会

地理・歴史・政治経済の3分野から2:2:1の割合で出題します。それぞれの分野の重要語句は、漢字も含めて正確に覚えてください。

穎明館中学校

算数

規則を正確に適用し、敏速に計算処理ができるかどうか、問題解決能力、論理的思考力、図形直観力があるかを問います。①は計算問題、②は小問集合、③～⑤は大問です。⑤では途中の式や計算・図・考え方をかく問題を出題します。不正解であっても部分点を与えることがあります。

国語

文章読解問題は、小説と論説文が中心です。ともに記述問題（20～60字）を2～3問出題し、読解力・思考力・表現力を問います。小説では登場人物の心情に関する問題、情景描写や語句、表現に関する問題、論説文では主題と論拠に関する論理を問う問題、文法に関する問題などを出題します。基本的な漢字の出題もあります。

理科

4分野から偏りなく出題します。理科に興味を持ち、観察や実験に自分からきちんと取り組むことができるかどうか、基礎的な知識と科学的な思考力があるかを問います。絵を描く問題も出題します。

社会

3分野を総合した大問を2題出題します。地理と歴史は、基本問題ではありますが、地図・統計・年表・写真・絵などを多用して、知識の確かさと広さ、理解の深さをいろいろな角度から問います。公民では、日本の政治・経済・社会についての基礎的知識を問うだけでなく、時事的な問題も出題します。

桜美林中学校

算数

総問題数は 20 問で、計算問題、逆算による穴埋め問題が 2～3 問、短い文章で完結する小問が 8～10 問です。ここには〇〇算といわれる問題や、面積・体積を問う問題が含まれます。残りの大問は 3～4 題で、速さを利用する問題や特殊算などです。基本的な内容が中心なので、計算ミスがないよう注意してください。2 月 3 日の算数 1 科入試は、総問題数が 25 問で、すべて小問となります。

国語

漢字や語句、表現の問題では正しい知識が必要です。日ごろから本や新聞を読むこと、正しい日本語を使うことを心がけましょう。長文読解問題は、小説・物語文と論説文・説明文から 1 題ずつ出題します。どちらも 3000～3500 字程度です。小説・物語文では、登場人物の心情や動き、作品の表現が中心になり、論説文・説明文では、全体や部分の内容を正確に理解したかが中心になります。

理科

2017 年度までは大問が 5 題で、それぞれ物理・化学・生物・地学・総合（時事問題も含む）から出題していましたが、2018 年度からは大問を 3 題にし、一つの大問の中に複数の分野にまたがるような問題や、時事に関する問題が含まれるようになりました。基本的な語句や現象などの知識を問う問題を出題していますが、今後は与えられた条件から内容を理解する問題や計算問題も出題します。試験時間 40 分、満点 80 点は変わりません。

社会

問題の総数は 40～50 問程度です。地理・歴史・公民の各分野から出題します。地理は日本の地理を中心にしながら、地域と産業、あるテーマに沿った内容を出題します。歴史は各時代の政治・経済や文化、あるテーマに沿った内容で、公民は政治・経済、国際、時事問題についてです。最近の出来事について調べておくようにしましょう。

かえつ有明中学校

算数

50分・100点満点で、大問は6題構成です。①は計算問題（5問）で、正確に速く解く計算力を見るために、地道に粘り強く計算する問題と、規則性を見つけ出して工夫する問題をともに出題しています。②は一行問題で、基本的な文章題の問題文の読解力と、処理能力を見るために、いろいろな分野から出題します。③～⑥は応用問題ですが、この順番でだんだん難しくなっているわけではないので、すべての問題を見て、解けそうなものから始めてください。

国語

50分・100点満点で、大問は3題構成です。基本的な読解力に加え、思考力・表現力を見ます。①は説明文で、全体の要旨、段落構成、段落ごとの要点、表現が読み取れているかを問います。②の物語文では、場面設定を踏まえたうえで、表現、情景や登場人物の言動から細かな心情をていねいに読み取れるか、文章全体の主題や心情の変化が読み取れるかを見ます。①・②の文章の字数はそれぞれ3500字程度で、配点は各40点程度です。設問は各10問程度で、選択肢・抜き出し・記述の形式があります。③は漢字を中心に、慣用句・文法などのことばの知識を問う問題で、配点は20点程度です。

理科

25分・50点満点で、大問は2～4題構成です。大問数が変わっても、生物・化学・地学・物理の各分野から、ほぼ均等に出題することは変わりません。内容は、実験に関する問題、図やグラフを用いた問題、計算問題、説明問題など。選択肢を選ぶ、語句や用語を答える、数値を求める、図や文で説明するなどの答え方を求めます。

社会

25分・50点満点です。地理分野・歴史分野・公民分野からほぼ均等に出題し、配点も均等です。大問は2題あり、①が地理分野＋公民分野、②が歴史分野＋公民分野で、問題数は25問程度です。地名・人名・社会科用語は漢字で書けるようにしておいてください。設問形式は、語句の記入、記号選択、記述問題（15～25字程度）です。出題のポイントは、地理分野は「国際関係の問題」「グラフ、データを読み解く問題」、歴史分野は「テーマ史、部門史」、公民分野は「時事問題（10月末までの出来事）」です。SDGs（持続可能な開発目標）について関心を持つことも重要です。

国学院大学久我山中学校

算数

〈男子一般・女子 CC 入試〉

大問は 4 題で、基礎学力を見る問題と応用力を見る問題が半々となっています。①は整数・分数・小数の四則混合計算問題 (4 問)、②は標準的な雑小問 (7 問程度) で、各分野からまんべんなく出題します。③は融合問題 (4 問程度)、④は記述問題 (4 問程度) で、(1) と (2) が、(3) 以降のヒントになっていることが多くなっています。記述問題は、思考力と表現力が必要となります。しかし、難度としては標準的なレベルで、落ち着いて取り組めば解ける問題です。

〈ST 入試〉

第 1 回・第 2 回は試験時間が 60 分で、配点は 150 点。第 3 回は試験時間が 50 分で、配点は 100 点です。応用問題である大問 2 題 (記述問題は 1 題) に、標準的な雑小問を合わせた形になります。基礎力に加え、応用力も見る問題で、各分野からまんべんなく出題します。雑小問は男子一般・女子 CC 入試より問題数が多く、難度も上がり、大問のなかの小問も多くなります。第 3 回は試験時間の関係で、第 1 回・第 2 回より問題数が少なくなります。また、計算問題は出題しません。

国語

〈男子一般・女子 CC 入試〉

長文読解問題の大問 2 題に加えて、国語常識問題を 1 題の計 3 題です。長文読解問題のジャンルは、小説・随筆・評論など多岐にわたりますが、文学性の高い文章と論理性のある文章とを組み合わせ出題し、読解力を問う内容となります。問題文の長さは、それぞれ 3500 字前後を目安としていますが、内容によっては、この字数にこだわらずに出題します。配点は、長文読解問題が 35 点×2 (長文読解問題それぞれに 1 問ずつ記述問題あり)、国語常識問題が 30 点です。国語常識問題では、常用漢字の書き取りや読み取りを中心に、慣用句・故事成語・ことわざ・敬語などを出題します。

〈ST 入試〉

長文読解問題の大問 2 題に加えて、独立した形での記述問題が 1 題、国語常識問題が 1 題の計 4 題です。長文読解問題の字数は 3500 字前後で、ジャンルは小説・随筆・評論など多岐にわたります。ST 入試の記述問題「主題を考えさせる問題」では、ジャンルを問わず幅広いテーマの文章 (1000~1500 字程度) から出題します。配点は、長文読解問題が 30 点×2、記述問題が 10 点、国語常識問題が 30 点です。国語常識問題では、常用漢字の書き取りや読み取りを中心に、慣用句・故事成語・ことわざ・敬語・韻文問題などを出題します。

理科

〈男子一般・女子 CC 入試〉

全分野からの基本問題で、大問数は 5 題。物理・化学・生物・地学から各 1 題出題します。大問ごとに 5 問程度の小問があります。全分野からの基本問題は、教科書で扱われている

語句、現象、観察の結果などに関する出題です。物理は教科書で学ぶ基礎的な事柄を発展させた問題、化学は身近な物質を使った実験に関する問題、生物は身近な生き物の生態や社会的に話題になっている事柄に関する問題、そして、地学は身の回りの自然現象に関する問題などです。

分野別の大問は、小学校での学習内容をもとに考察していくような形式で、思考力を問う問題が多く、単純に暗記力や計算力を試す問題は少ないと考えてください。日常生活のなかで見られる自然現象や科学技術に着目し、実験結果をもとに考察していく問題を多く出題します。なお、社会的に話題になっている時事的な事柄については、小学校の範囲をやや超える内容でも出題することがありますが、問題文に解くヒントが隠されています。よく読んでください。

〈ST 入試〉

2020 年度入試から、2 月 5 日の ST 入試に理科も加わっています。男子一般・女子 CC 入試と形式は大きく変わりませんが、グラフや図を描く問題などを出題しています。大問²以降をしっかりと解いてもらうために、大問¹の問題数を少し減らしています。思考力を問う問題も多く、選択肢から選ぶものだけではなく、記述するものを増やしています。

社会

〈男子一般・女子 CC 入試〉

大問 3 題で構成され、50 点満点で試験時間は 40 分です。¹は社会全般にまたがる総合問題です。わたしたちの生活のなかにある身近な話題をテーマに取り上げます。2020 年度は、「手洗いと石けん」「国際連合と児童労働」「キャッシュレス社会」などを切り口に、日常生活にかかわる事柄を幅広く出題しました。グラフの読み取り問題をはじめ、考察力・思考力・理解力が求められる出題が中心です(15 点)。²は地理・歴史総合問題です。2020 年度は「日本遺産」「花火大会の開催地」「大阪サミット」が切り口でした。基本的には一つの地方に限定せず、日本全国の自然・地理・歴史から文化まで幅広く出題します。地図や図表・グラフを読み取り、知識とつなげて考える力が必要です(20 点)。³は歴史の単独問題です。歴史というと暗記中心と考えられがちですが、本校では写真や史料・図表などから読み解く問題を出題しています。日ごろから、歴史に関して幅広く興味を持って勉強しておくことが必要です(15 点)。

〈ST 入試〉

大問 2 題で構成され、50 点満点で試験時間は 40 分です。¹は社会全般にまたがる総合問題です。わたしたちの生活のなかにある身近な話題をテーマに取り上げます。男子一般・女子 CC 入試の¹より問題数が多くなり、記述式で説明する問題も増えます。²は地理・歴史の総合問題です。男子一般・女子 CC 入試の²より分量が多くなります。2020 年度の ST 入試の問題については、本校ホームページに掲載しているので、ぜひご覧ください。

芝浦工業大学附属中学校

算数

大問が4題で、うち1題は小問集合（12問）です。本校の数学科の授業では、答えを出すまでの過程を重視しており、中学入試でもその特色を生かして出題しています。小問を含むすべての問題の解答欄には、答えを書く欄以外に途中の過程を書く欄があり、「式や考え方」と「解答」それぞれに配点があります。1日・2日の入試には「聞いて解く問題」があります。

国語

文章読解問題は2題で、1題は小説などの文学的文章、もう1題は説明的文章です。説明的文章は、比較的平易なものを出题するようにしています。そのほか、韻文（詩・短歌・俳句など）、一般常識（ことわざ・熟語など）、漢字などを出题します。なお、韻文では100字程度の作文問題を、語句では日本語表現に関する問題を出题しています。1日・2日の入試には「聞いて解く問題」があります。

※聞いて解く問題（国語・算数の一部）

ことばの4技能の一部を測るものです。「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、文字からだけでなく音声からの情報を得たうえでみずから考え、行動することが必要であり、従来の入試では実現できていなかった部分です。「国語」の入試問題では説明や指示を聞き、答えを聞いて選ぶ「聞く力」を確認します。「算数」の入試問題では耳からの情報で図形などもイメージできる力を確認します。これからの時代には、ことばによるコミュニケーション力やバランスの良い言語の4技能の習得が重要だと考える本校のメッセージでもあります。入学後には「3つの言語教育」や探究型授業で力を伸ばしていきます。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野からまんべんなく出題しますが、比較的多いのは物理・化学分野です。問題は、選択肢から選ぶものや、数値を記入するものが中心ですが、実験・観察の操作・結果については、図表やグラフの読み取りに関して文章で説明する問題もあります。本校の授業では、特に第1分野（物理・化学）で多くの実験を行っています。したがって、入試でも実験に関する問題を出题しています。

言語技術

論理的思考力・分析力・発想力・表現力を総合的に問います。資料分析型または問題解決型の出題をします。読み取った情報からみずからの考えを組み立てて説明するような、答えが一つに定まらない問いに対して、文章で自分の考えを説明する問題を出题します。

英語

「英語を使って何ができるか」を評価する試験となっています。英検®でいうと、準2級～4級の幅広いレベルで出題します。時間と配点は、リスニングとリーディングが半分ずつです。

その他関連情報

発熱者と新型コロナウイルス罹患者用の試験日を設定しました。

渋谷教育学園渋谷中学校

算数

答えのみを書くのではなく、記述する問題を含む形式にしています。①は6問中1問が記述、②以降は、大問3題のうち1題が記述で、それぞれ大問1題に小問が数問あるスタイルです。数学科としては、小学校卒業までに身につけてもらいたい計算力や基本的な問題を解く力はもちろん、物事を多面的に見ることができる力や文章を読解する力なども入試で確認したいと考えています。問題作成においては、総合的な力を見ることができるようにと心がけました。また、記述問題を導入したのは、式や図からどういう考え方をしたのか、どこまで考えることができたのかを見ていきたいと考えているからです。

国語

帰国生入試を含め、各回の問題の形式や難度などには変化をつけずに作成しています。難度は前年度と同程度と考えています。出題形式も例年と同様です。文章を読んで設問に答える大問を2題出題します。1題は小説・物語文、もう1題は評論・説明文です。設問は読解問題が中心で、本文をじっくり読み、いかに自分のものになっているかを見たいと考えています。登場人物の気持ちの動きや、筆者の論の流れを自然にとらえることができれば、答えやすい問題が多いのではないのでしょうか。設問の形式としては、選択式・記述式のどちらも出題しますが、記述を重視しています。字数制限のある問題は、長いもので80字前後です。部分点をつけながらいねいに採点します。一方、漢字や語句などは単独では出しません。いずれも大問2題のなかで出題します。

理科

年によって出題数・配列・構成・形式などは多少変化していますが、傾向は基本的には変わりません。考える力や表現力をしっかり見たいと思います。4分野（物理・化学・生物・地学）に分けることにはこだわっていません。過去問を見ればわかるように、総合問題も出題しており、理科全体から幅広く出題したいと考えています。

社会

本校の教育目標の一つである「国際人」の育成に注目し、現代の社会情勢に興味・関心を持っている生徒を見極められるような入試問題を作成したいと考えています。出題のポイントは、①「判断力」を問う、②「記述力」を問う、③社会的関心の高さを問う、の三つです。①は、知識をもとにして判断する力があるかどうかを問うということです。統計資料・グラフ・史料・地図などを読み取る力が必要となります。②は、単に物事の正否判定を問うのではなく、因果・背後関係の説明を求めるといえるものです。ふだんから自分のことばで文章を組み立てる練習が必要でしょう。そして、社会科の学習の基本は、興味・関心を持つことなので、③として、日本や世界に対する興味・関心があるかどうかを問います。時事問題の情報の収集も大切です。

順天中学校

算数

問題は大きく分けて、「計算問題」「一行問題」「総合問題」の三つです。総合問題は、それぞれ小問3問程度から成ります。「図形（面積・体積・角度など）の問題」「量の変化をグラフから読み取る問題」「規則性や周期性を見つける問題」「割合に関するさまざまな問題」「文章から何が問われているかを読み取り、粘り強く解決していく力を見る問題」などから毎年3題を出題しています。これらの問題を通じて、①基礎的な計算力が備わっているか、②数や図形の基本的な性質を理解しているか、③与えられた条件から論理的に分析して解答を導き出すことができるか、④知識を融合させて問題を解決できるか、を見ます。

国語

「自然科学や社会科学に関する説明文の内容や主題を論理的に読み取る問題」「小説・物語から登場人物の心情の変化を読み取る問題」「語彙力（漢字の読み書き・ことわざ・慣用句・四字熟語・ことばの意味）を確認する問題」で構成しています。自由作文の問題では、解答を自分のことばで適切に表現することが大切です。

理科

「動植物の生態や形態について問う問題」「地形・岩石・天体・気象について問う問題」「水溶液や気体などについて実験を通して問う問題」「力・電流回路・磁石・光などについて実験を通して問う問題」を出題します。観察力、筋道を立てて考える力、実験方法と結果から考察する力、計算力、問題を解決する力が必要となります。

社会

「日本の特徴的な地域や代表的な産業を問う問題」「日本の歴史事項・文化・対外関係を問う問題」「時事問題・国際問題を含めた政治経済の基本事項を問う問題」「図表や写真資料・グラフなどを見て考えさせる問題」を出題します。日本地誌、歴史の流れ、国の基本的制度などの知識や事象を結びつけて融合する力が必要となります。また、時事的事項に興味・関心を持っているかどうかも見ます。

英語（第3回入試 選択教科）

「リスニング問題」「語法・語彙に関する問題と並べ替え英作文問題」「内容理解問題（日本語による要約問題と、それに付随する問題）」の三つで構成しています。これらの問題を通じて、英検®3級程度の語彙力、リスニング力、短文の構成力、コミュニケーションの場面や話題の理解力、そして、ある程度まとまった英文の理解力を見ます。また、問題に関連した内容の日本語作文力も見ます。

成蹊中学校

算数

【出題方針】正確な計算力をベースにした算数の力が身につけているかどうかを確認します。どの分野からも偏りなく出題することを心がけています。

【問題の傾向】計算問題は必ず出題します。「〇〇算」「図形」「割合・比」「二つの量の変わり方」など、どの参考書や問題集にも載っている典型的な問題が多くなっています。また、典型的な問題を組み合わせた応用問題もあります。いわゆる難問といわれるものも出題することがあります。

国語

【出題方針】いろいろな形態のまとまった文章を読む力を試します。文学（物語文）では、状況を把握し心情を理解する力を、非文学（論説や説明文）では、論旨や筆者の主張を正確につかむ力を主に見ます。記述問題では、文中のことばをつなぎ合わせるだけでなく、理解したことを自分のことばで的確に表現する力があるかどうかを問います。

【問題の傾向】長文読解問題（文学と非文学）を出題します。理解力と表現力を確認するための、50～100字前後の記述式問題も出します。また、接続詞・指示語・語句説明・漢字などの基本的な問題もあります。選択肢の問題であっても、全体を把握したうえで答えるような出題を心がけています。

理科

【出題方針】小学校理科のいろいろな分野からまんべんなく出題し、基礎知識を幅広く問います。基本的に4分野（物理・化学・生物・地学）から1題ずつです。答えを選択する問題のほか、文章で答える問題や計算問題などもあります。

【問題の傾向】本校での授業の中心となる実験・観察を取り上げた問題を毎年出題しています。図やグラフを用いた問題も毎年あり、データの読み取りや考察する力も重視しています。

社会

【出題方針】「考える」ことを重視する授業方針のため、基本的な知識の理解度を問う問題と、提示された情報・資料からその場で新たな知識を得ることができているかどうかを見る問題を中心に据えます。歴史（江戸時代以降）分野の問題と公民分野の問題が1題ずつの2題構成で、それぞれに地理の要素を取り入れます。2題のうち、どちらかが長文と資料の読解を中心とした大問で、論述も含まれます。もう1題は、短文を正確に読み取り、語句や記号の並べ替えで解答する内容となっています。配点は、長文の問題が6～7割で、短文の問題が3～4割です。歴史分野と公民分野のうち、どちらが長文（短文）になるかはわかりません。

【問題の傾向】歴史分野はきちんと教科書で学習していれば答えられる問題です。公民分野は、現在の日本の社会問題に焦点を当て、具体的素材とともに出題します。日本国憲法に関する問題が必ずあります。設問で要求される記述の答えは、本文中に隠されています。

成城学園中学校

※「入試の出題傾向」という形ではなく、「中学校入学までに身につけてほしいこと」として、以下の情報を公開しています。

算数

「整数・小数・分数についての四則計算（加減乗除）を素早く、正確に行える計算力」「問題文の意味および何が問われているのかを理解する力」「思考の途中経過を他人が見てもわかるように表現する力」「50分間の授業に取り組むことができる集中力」をつけるよう心がけてください。

国語

本校の国語科では、入学までに小学校で学習した基礎的なことをしっかり身につけてほしいと思っています。まず「読解力」ですが、説明文では書かれている内容を整理し、要点を押さえながら読む力、小説では場面の移り変わりや登場人物の心情の変化などを押さえながら読めるような力を身につけてほしいと思います。そして「表現力」として、自分の考えや感じたことを正確に文章に表現する練習をしておいてください。こうした力を身につけるためには、さまざまな内容の文章に触れるなど、日ごろの読書量を増やすことが大切です。また、新聞を毎日読む習慣を身につけ、記事を要約してみるのも有効でしょう。さらに、小学校で学習する漢字（1026字）の読みや書きがしっかりできるようにしておいてください。特殊な知識などを身につけることも大切ですが、まずは小学校で学習した基礎的なことを十分に身につけて入学してきてほしいと思います。

理科

小学校の理科の教科書にある内容について偏りなく勉強し、基礎・基本をしっかりと身につけてください。単に知識を丸暗記するのではなく、分析する力をつけてほしいと考えています。実験であれば、その結果から法則性を見だし、それを応用するということが重要です。観察では、対象物の特徴を見つけ出し、それをまとめられる力をつけるよう心がけましょう。また、中学校の授業では、実験の数値を計算する機会が増えます。その際、小数や分数の計算が必要になることがあるので、小数や分数を含んだ四則計算を正確に速く行う力をつけておいてほしいと思っています。このほか、実験でガスバーナーを用いることが多くあります。マッチの擦り方（火のつけ方）、ガスバーナーの点火方法、炎の調節の仕方などの実験操作に慣れておくとよいでしょう。

社会

小学5・6年生で学習する地理・歴史（日本史）・政治（社会の仕組み）の基本的な内容をしっかり理解しておいてほしいと考えています。その基本的な知識のうえに、それらを用いて思考し、判断できる応用的な力が身につけるとよいでしょう。たとえば、単純に記憶するだけでなく、地図・グラフ・表・図版などを読み取って物事の関連やつながりを理解し、考えられる力を身につけておくとよいと思います。また、中学校の定期テスト

では論述を求める問題も出しているので、知識として得たことをしっかりまとめて書く力もあるとよいでしょう。歴史では、時代の特徴や流れ、社会の変化などを意識して押さえてほしいと思います。政治や現代社会の仕組みについては、基本的な知識に加えて時事的な内容にも興味・関心を持ってもらいたいと考えています。そのため、小学生なりにニュース・新聞などを通して、世の中の出来事に関心を持ってほしいと思います。

青稜中学校

算数

設問数は 20 問で、50 分の試験になります。1 問当たり 5 点の配点で、答えのみを採点し、途中式に対する部分点はありません。内容は大きく七つに分かれています。一つめは計算問題が 5 問で、四則の演算力を問います。二つめは小問 7 問です。単位の換算、割合、約数や倍数の性質についての問題、速さと時間、角度を求める問題など、さまざまな分野から出題しています。三つめ以降の大問は、身近な題材を使った文章題となっています。つるかめ算・相当算・旅人算などの特殊算や、図形の問題などです。基本的なものが多いので、時間配分に気を配り、確実に得点するように心がけてください。

国語

大問一（50～60％）では、小説や随想などの文学的文章を出題します。形式は一般的な読解問題で、記述・書き抜き・選択肢など、さまざまな方法で登場人物の心情や人物像などを問います。大問二（20％程度）では、1000 字程度の論理的文章を出題しますが、内容の読解よりも、単純な指示語、文法などの言語事項を問うことに重きを置いています。大問三（10～20％）は、ことわざ・慣用句・文法などで、いわゆる国語の知識問題です。大問四（10％程度）は、漢字の読み書きの問題です。文章を時間内に正確に読解する力が求められます。日ごろから、さまざまな文章に触れるようにしてください。

理科

大問 4 題の構成で、物理・化学・生物・地学の各分野から、ほぼ均等に出题します。問題数は 30 問程度で、簡単な記述や作図を出すこともあります。基本的な問題から、データ処理をする問題まで幅広く出題します。また、時事問題や環境に関連する問題もよくあるので、日ごろから、理科にかかわるニュースに耳を傾けるようにしてください。

社会

地理・歴史・公民から均等に 20 点分ずつ出題するので、社会全般にわたり、まんべんなく学習することが求められます。記号で答える問題以外は、すべて漢字などで正確に書く力が必要です。基本的な知識が定着していることを前提として、統計を読み取ったり、説明文の正誤を判定したりする問題を数多く出題しているので、しっかり準備しましょう。また、時事的テーマに関する問題を出すこともあります。

玉川学園中学部

算数

毎年、分数や小数を含む四則混合の計算問題を出題しています。短文問題としては、約数・倍数、割合、場合の数、図形の求角・求積の問題を出します。また、統計の問題もあります。

国語

出題内容は、言語に関する問題と長文問題（説明的文章）1題という構成です。言語に関する問題は、漢字の読み書きと漢字の構成、文法、慣用句などについてです。長文については、5000字程度の説明的文章を読んで問題を解くことになります。内容理解を問う記述問題を必ず出題します。

理科

一問一答タイプの問題は、物理・化学・生物・地学の4分野からまんべんなく出題します。教科書の基本的な内容をしっかり学習しておきましょう。また、グラフや表などの資料を読み取る問題は、身の回りの理科的事象や環境について問うものが多い傾向があります。知識をたくさん身につけたうえで、理科的事象に興味を持ち、「なぜだろう」と考えることが大切です。

社会

歴史では幅広い範囲の知識が必要になります。地理では、世界の国々の位置、都道府県の形などを問う問題を多く出題します。公民では、環境や時事問題について考えたり、グラフを読み取ったりして解答する問題が多くなっています。

英語

出題内容は英検®4級～3級のレベルで、リスニング・リーディング・ライティングの3技能に関する運用能力を問う問題を出題します。語彙・語法や文法の問題、長文読解、20語程度の英作文などがあります。

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

算数

大問数は5題で、試験時間は50分です。小問は20問前後です。計算力は「算数」の学習の基本です。毎日、欠かさず練習問題を解くことが大切です。①は小数や分数を含む計算問題が4問です。②は「小問集合」として、いろいろな計算問題から出題します。還元算・消去算・仕事算など「〇〇算」といわれる単元の基本を習得しておいてください。③～⑤は数量分野・図形分野・グラフの問題です。数量分野では、特に数の性質、規則性などに注意しましょう。図形分野では、面積や体積ばかりでなく、長さ・角度・相似比・面積比などの考え方や解き方を身につけてください。グラフの問題では、速さに関するもの、水の深さの変化に関するものなど、さまざまな問題があるので、いろいろなグラフに接しておきましょう。⑤では記述問題を出題するので、時間配分に注意してください。

国語

大問数は4題で、試験時間は50分です。「漢字の読み・書き」は各5問、「ことわざ・故事成語・成句」からは10問を出題します。「視写」という問題では150字程度の全文カタカナ書きの文章を読み、小学校までに習った漢字とひらがなで書き直します。全文を読んで内容を理解して漢字を用い、読点もつけてください(句点は問題文に記されています)。この過程を通じて、読解力・理解力・語彙力を見ます。長文読解は説明文の場合が多く、問題文の長さや設問数(10問程度)は、毎年同じくらいです。最後に200字の自由作文を出題します。長文問題の内容に関するもので、指示に従って考えや具体例、理由などを書くことで、発想力・表現力を見ます。難問や奇問はないので、日ごろの基礎的な学習に加え、ふだんから本を読んだり、人とていねいなことばで会話したりといった言語活動を通じて、ことばに興味を持つようにしてください。

理科

大問数は4題で、試験時間は「社会」と合わせて50分です。①は「生物と環境」、②は「物質と変化」または「運動とエネルギー」、③は「地球と宇宙」の各分野から出題しています。④は理科に関するデータなどの資料を基に答える問題です。いずれも内容は基本的なものがほとんどです。問題文をよく読んで考える問いもあるので、ふだんからわからない問題があっても、すぐに解答や解説を見るのではなく、じっくりと考える習慣を養うことが大切です。特に実験や観察についての出題が多く、図やグラフを描いたりする問題や、1～2行で説明(記述)する問題もあります。

社会

大問数は3題で、試験時間は「理科」と合わせて50分です。どちらを先に解いても構いませんが、得意な教科を先にやる人が多いようです。歴史・地理・公民の各分野から出題します。いずれもA4判1ページ程度の文章を読んで答える形式となっています。歴史は時代ごとの出来事を、地理は地形図を使った読図と地域の特徴を、公民は身の回りの出来事や社会問題について理由や背景などを説明(記述)する問題を、それぞれ出題します。

中央大学附属中学校

算数

出題において重視するポイントは、「したたかな計算力」「論理的思考力」「図形や空間を把握する力」の三つです。「したたかな計算力」には、工夫により速く正確に結果を得る能力も含まれます。「論理的思考力」には、長文の問題文を最後まで読み解く読解力、グラフに表されたものを見抜く分析力、仮説を立てて、場合分けする問題整理能力も含まれます。「図形や空間を把握する力」では、回転したり、移動したり、切ったりといった「動き」に対する想像力も試されます。なお、「特殊算」については、参考書などで一通り学習しておくとい良いでしょう。

国語

出題形式は例年と同様で、第1回・第2回とも大問2題で構成しています。大問の一つは文学的な文章で、小説もしくは随筆となります。もう一つは論理的な文章で、論説文もしくは批評文となります。どちらの文章も、他校の入試問題本文と比べて長めになっています。また、その難度についても、必ずしも低いものではありません。速く正確に読むことが求められます。設問は、各大問に10問以上設定され、さらに枝問や個々の設問のなかに解説文が組み入れられる場合があるので、かなりの分量になります。また、解説文や四者択一の選択肢の文にも比較的長いものがあります。設問文についても、何が問われているのか、何を述べているのかという点を的確に理解することが求められます。

理科

本校では、中学・高校を通して実験や観察を重視しています。自然や科学に関する基本的な知識とともに、実験・観察で得られた結果や、グラフ・表をみずから考える力や読み解く力が備わっているかを確認します。このため、ふだんから書物を読むだけでなく、自然界のさまざまな現象についてみずから疑問点を探し出し、探究しながら学ぶことも大切だと考えます。そのような観点から、身の回りの自然を題材に、その場で考える問題や時事問題も含めて出題しています。理科の全範囲から大問3題を予定しているので、グラフ・表を正しく読み解く力、知識だけに頼らず考える力、まとめる力、相手に伝える力を高めましょう。

社会

総合的な大問2題のなかで、地理・歴史・公民の各分野についてまんべんなく問います。多くは選択肢から正解を選ぶ設問となっていますが、語句を記す問題もあり、漢字で書くことを求めることもあります。ある事柄について、自分の考えや簡単な説明を求める「短文記述問題」も出題します。教室のなかで学ぶ知識はもちろん大切ですが、問題意識を持ってふだんの生活を送ってほしいというメッセージを込めて、新聞やテレビのニュースで大きく取り上げられた時事ニュースや、日常生活にかかわりのある内容も盛り込んでいます。全体として、基本的な知識を習得しているか、いくつかの事実関係を関連づけて考察できる力があるかを確認します。

東京成徳大学中学校

算数

大問は5題、小問は20問です。1問5点で100点満点となっています。試験時間は50分で、過程をきちんと書かせる問題を何問か設定しています。規則性や図形の問題を増やし、考える力（試行錯誤のプロセス）を見る構成になっています。大問①では、計算や一行問題を合計9問出題しています。大問②と③では、公倍数や公約数を中心とした数の性質の問題、規則性を見つけて解く数列などの問題、旅人算などの特殊算を4問ずつ出題しています。あとは平面図形や空間図形なので、図形の問題をできるだけ多く解いておきましょう。また、計算練習を繰り返し行うことを心がけ、文章題を解くときは、できるだけ図やグラフを描きながら考える習慣をつけてください。

国語

各回（第1回午前～第4回午前の計6回）とも大問は3題で、文学的文章（小説など）、説明的文章（論説文など）、語句に関する知識問題（ことわざ・慣用句、熟語の組み立てなど）と漢字の読み書きで構成されます。それぞれの長文読解問題の設問数は7～10問で、そのうち記述問題（20～50字）は1～3問です。本文中からの抜き出し問題ばかりではなく、説明させる設問も必ずあります。

理科

大問は物理・化学・生物・地学の4分野から、各1題は出題します。小問数は記述・計算を含めて30問前後となります。独立した内容だけではなく、ほかの分野と関連した出題もあります。実験結果や写真・図が表していること、それから考えられることをしっかりとらえる力をつけましょう。自分でたくさんの実験をすることは難しいと思いますが、写真・図や実験方法が多く記載されている参考書は大きな助けになります。ぜひ活用してください。

社会

地理・歴史・公民の各分野から、基本的な問題を出します。時事問題を出題することもあります。基礎事項を確実に学習し、地名・人名・用語は正確に漢字で書けるようにしておきましょう。また、暗記だけに頼らず、「考えて解く」ということを意識してください。

東京電機大学中学校

算数

入学後に学ぶ「数学」へのつながりを考えた問題を出題しています。大問¹では計算力を問います。基本的な計算がうまくできていない状況では、「数学」の学習でつまづく可能性が非常に高くなります。分数や小数の四則計算、()が含まれる計算、還元算など、速いだけでなく、正確な計算力を身につけてほしいと思います。大問²では小問の集合を、大問³以降では記述式問題を出題します。記述式問題は、本校の「数学」指導において基本となっている「思考過程を重視する」ことにつながっています。受験生の皆さんにも、「なぜその結果が得られるのか」ということを大切にして学習してほしいと考えています。

国語

物事を論理的に思考して分析するためには、十分な国語力が必要です。そして、それは他教科を学び、理解するうえでの土台となる能力であるともいえます。近年、教育現場においては生徒の「国語力の低下」が指摘されており、中高生の知的教育活動への影響が懸念されています。本校の入学試験では、受験生が本校における学習活動を行っていくうえでの十分な能力を備えているかという点を見るために、例年「文章題 2 題」「知識問題」「作文問題」「漢字の読み・書き」を出題しています。日ごろから自分の意見をことばで表現することを心がけてください。

理科

物理・化学・生物・地学の各分野から基本的な内容を中心に、均等に出題します。また、環境問題、近年話題になった自然科学関連のニュース、身の回りに起こる自然現象などについての簡単な問題も出します。ふだんあまり気に留めない、日常の生活で当たり前と誤ってしまっている現象や、身の回りにある変化を注意して観察してください。よく考えると非常に不思議なこと、驚くことが数多くあると思います。小さなことに疑問を持って、機会があるごとに、それを図書館や博物館に行き調べてみましょう。

社会

例年、地理・歴史・公民の 3 分野から 10 問ずつを出題しています。内容は、時事問題を除けば、基本的な事項を問うものとなっています。歴史の範囲としては古代から現代までで、また政治史のみならず、文化史や経済史までさまざまな分野にわたります。したがって、単に用語を覚えることより、歴史の流れなどをきちんと理解することが重要です。地理では地形図の読み取りを通して、その土地の成り立ちや特徴を答える設問が主流となっています。公民では新聞記事などを読み、そこから憲法や日本の政治制度について答える設問が主流です。時事問題はこの 1 年間の出来事から出題することが多いので、日ごろからしっかりとニュースに着目していきましょう。

東京農業大学第一高等学校中等部

算数

問題の形式は前年と同様で、計算問題、一行程度の文章題、思考的（作業的）問題で構成されます。第1回・第2回は答えだけを記入する問題が中心で、第3回は考えた過程を記述する問題があります。計算技能の確かさ、定理・法則を活用できる力、数量や形をイメージする力、情報を整理整頓できる力、試行錯誤できる力などを求めます。

国語

第1回は例年同様、漢字の問題と文章題（説明文2題）という構成です。第3回も、漢字の問題と文章題2題（説明文・物語文）で構成されています。文章量は4000字前後となり、本文に書かれていることを時間内に正確に読み取る力が求められます。内容をかみ砕き、選択肢を吟味できるかも重要です。文章のテーマは自然科学や文化などの身近なものが中心となります。漢字は「とめ・はね」を見ます。

第2回は、第1回の問題構成に30字程度の記述が加わります。

理科

理科の基本となる内容や、身の回りの現象をテーマに、物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。「知識や原理・法則の定着と活用」「情報の読み取り」「グラフ・表の内容把握」「考察や原因の究明」「自分の考えた道筋を表現する記述問題」などで構成します。知識の正確さ、原理・法則を活用する力、グラフ・表から情報を読み取る力、考えた道筋をわかりやすく伝える力などを求めます。

2021年度の第1回は、理科単独での出題となります。2020年度の第2回の傾向を参考にしてください。

社会

地理・歴史・公民の3分野から出題します。全般的には人名・地名・事件名など社会科としての基礎・基本を確認するものです。地理分野では、雨温図・地形図・統計グラフなどを正確に読み取ることができるか、歴史分野では、時代ごとの政治・経済社会・文化の違いを理解しているか、公民分野では、時事問題を含む世の中の出来事に興味・関心があるかどうかを見ます。人名・地名・事件名などについては、漢字指定の場合があります。

東洋大学京北中学校

算数

大問数は5～6題です。大問①は計算問題、大問②は短文問題で、大問③からは応用問題です。計算問題では、小数・分数の計算や、工夫すると解きやすくなる問題などを毎年出題しています。正確性を上げるために、毎日少しずつ練習し、計算力を身につけてください。短文問題では、数量分野・図形分野などの基本問題を、重点的に繰り返し練習してください。応用問題は、図形や速さに関する問題など、いろいろな分野から出題します。図形に関しては面積や体積を求めるだけでなく、「平面」「立体」の複合問題も練習してください。大学の新入試にも対応できるように、問題文をしっかりと読み、内容を理解して答えるような新傾向の問題も出題します。また、考え方や途中の計算式を書く記述式の設問もあるので、解答の書き方を練習する必要があります。全体として、難問・奇問を出題することはありません。受験の基本から標準レベルの問題を中心に学習してください。

国語

大問数は4題で、語句・文法・漢字などの知識問題が1題、物語文と説明文の文章読解問題が2題、そして150字以内の記述問題が1題という構成です。得点配分は、「語句・文法・漢字知識問題」が3割、「文章読解問題」が6割、「記述問題」が1割を目安としています。

取り上げる文章のジャンルは、登場人物の心情を把握する物語文と、筆者の意見を正確に読み取る説明文です。詩・伝記・古文・紀行文などは出しません。物語文は、登場人物の心情の理解に重点を置いています。説明文は、環境問題や文化論などのさまざまなジャンルから出題します。設問も、文章の流れや内容の理解、接続語の補充、指示語が指し示す内容、そして自分のことばで説明する問題など、幅広く組み合わせています。

150字以内の記述問題は、与えられたテーマについて、自分の考えを字数内でまとめるという形式です。考えの内容自体を点数化するのではなく、考えたことや感じたことを順序立てて、自分のことばで表現できているかどうかポイントになります。

知識問題のうち、漢字は小学校高学年で学習したものを多く取り上げます。慣用句・四字熟語や言葉のきまりについても出題します。

2500字以上の、少々長めの文章を読解できるような力が必要となります。筆者の意見や、登場人物の心情を集中して読んでいけるようにしてください。そのためには、さまざまな文章を読み慣れておくことが大切です。また、文章を読むためにも、さらには漢字や語句の問題に答えるためにも、ことばに関する基本的な知識を身につけてください。自分のことばで解答する問題は、各文章題にそれぞれ1問以上あり、また大問④として150字以内の記述問題もあります。特に150字以内の記述問題に向けて、ふだんからテーマを決めて文章を書くことに慣れておく必要があります。

理科

大問数は5題です。大問①は小問集合で、物理・化学・生物・地学分野からそれぞれ出題します。内容は基礎的な知識や、最近の科学的な話題などです。大問②～⑤は、物理・化

学・生物・地学の各分野から 1 題ずつ出題しますが、いずれも基本的な内容です。また、科学的な事柄について説明・考察するもの、理由を述べるものもあります。

理科は物理・化学・生物・地学分野から成るため範囲が広く、また、どの分野からもまんべんなく出題するので、バランス良く学習することが求められます。ただ、ほとんどが基礎的な知識を問う問題です。教科書や問題集を用いて演習を繰り返す学習を続けることにより、高得点を狙うことも可能です。実験や観察についての出題もあるので、グラフや表からデータを読み取る学習、結果と考察を考える学習を心がけてください。

社会

大問数は 3 題で、基本的な問題が中心です。地理・歴史・公民の全分野から出題します。配点の目安は、地理から 20 点、歴史から 20 点、公民から 10 点の、合計 50 点満点となります。基本的な事柄を幅広く出題する傾向になっています。解答形式は各分野とも、記号の選択と用語の記述だけでなく、グラフや資料から読み取ったことをもとにして、社会的な事柄についての考えを述べる問題も出題します。

本校の社会科では、次の三つの実力（姿勢）を持った人に入学してほしいと考えて作問しています。一つめは、小学校で習得する基本的な学力・知識をしっかりと身につけていること。二つめは、社会的な事象について、多方面にわたり興味と関心を持っていること。そして三つめは、資料などに基づいて社会的な事象について考え、問題文の指示に従って、みずからの力で解決に当たる意志を持っていることです。このようなことから、入試では最後まであきらめずに解こうとする姿勢がとても大事になります。わからない問題があってもすぐに投げ出さず、落ち着いて問題文を読んで、解答の糸口を探し出してください。

哲学的思考力問題（「哲学教育」思考・表現力入試）

大問 2 題を出題します。問題①では、与えられた資料やキーワードに対して、自分自身で問いを立て、自分の考えをまとめる問題を出題します。発想の独創性、論理的一貫性、内容の説得力などが評価の対象となります。たとえば、「こころ」というキーワードに対して、「こころはどこにあるんだろう？」「こころが広がってどういうこと？」などと問いを立てたりします。「こころにストレスを感じる時」という統計資料に対しては、「こころを楽にしてあげる方法にはどんなものがある？」などと、解決に向けた問いを立てたりします。このように、さまざまな角度から考え、問いをつくったうえで、その問いに対する自分の考えを述べます。その際、どうしてその問いについて考えたいと思ったのか、そうすることにどんな意味があるのかといった、問いの意義を示すことや、みんなが知っている解決方法のほかに、自分だけが思いつく解決方法を考え出すことで、多角的に論ずることができます。また、単に自分の考えを述べるだけではなく、そのように考える理由や根拠を示して、文章に説得力を持たせることが求められます。身近なテーマや問題について、日ごろから問いをつくって考える練習をしてください。「どうしてなんだろう？」「解決するにはどうしたらよいだろう？」など、いつも自分の頭で考えることを習慣化すれば、独創性や論理的な思考力を養う訓練になります。また、あなたの持つ知識をフルに使って、自分の考えを裏付けることは、説得力のある文章をまとめる練習になります。

問題②では、哲学的な文章を読み、その文章をまとめる問題を出題します。きちんと内容

が読み取れているか、答案用紙にまとめた文章の筋道が通っているかが評価の対象になります。読書に親しみ、文章を要約する習慣をつけてください。

日本大学第二中学校

算数

基本的な計算力が必要です。ミスを減らし、計算するスピードをつけてください。また、問題文をよく読み、何を求めるのかを明確に判断できる力も養っておきましょう。応用問題はできるものから確実に解いてください。

※2021（令和3）年度入試では、小学校の臨時休校を踏まえ、**3**以降の大問をいくつか削減し、問題数を減らします。その分、**1**と**2**の小問群に配点を増やします。

国語

例年、長文読解の問題を出題しています。文章をしっかり読み、内容をつかむことが大切です。そのほか、漢字の読み書き、ことわざなどを出題したこともあります。文章に慣れる訓練をしておきましょう。

※2021（令和3）年度入試では、ドリルと長文1題の大問2題構成に変更します。例年は長文2題としていたものを1題減らします。

理科

4分野からまんべんなく、教科書の内容を中心に出题します。問題集や参考書で難問・奇問を練習するよりは、日ごろから教科書の基本事項をまとめ、確認しておくことが大切です。グラフの問題も解けるようにしておきましょう。

※2021（令和3）年度入試は、社会と合わせて40分で実施します。大問は例年どおり、物理・化学・生物・地学の4題を設定しますが、それぞれの小問を例年より減らします。出題範囲は小学校5年生までの内容としますが、時事問題は含みます。

社会

3分野からまんべんなく、教科書の内容を中心に出题します。教科書をしっかり学習し、語句だけでなく内容も理解することが大切です。時事問題も出題するので、最近の社会の出来事に注目してください。

※2021（令和3）年度入試は、理科と合わせて40分で実施します。6年生の後半で学習する「我が国の政治の働き」と「グローバル化する世界と日本の役割」（公民分野・主に教科書6下の内容）については、必須問題ではなく、歴史分野の問題との選択問題として出題します。出題範囲には時事問題も含みます。

広尾学園中学校

算数

第1回から第3回までの問題では、計算力や知識の確認のほか、解法のテクニックや暗記に偏ることなく、「問題文から条件を整理し、分析する力・考える力」があるかを問います。記述問題については、「試行錯誤して情報を整理し、それらを分析・考察して答えを導く力」を問います。医進・サイエンス回の問題では、上記の記述問題のポイントに加え、日ごろから算数にどのくらい興味を持って取り組んできたか、またどのような考え方をし、問題を解いているかを見ます。応用問題は規則性、割合、速さ、平面図形、空間図形、整数問題、場合の数などから出題します。応用問題中の記述問題では、答えに至るまでの過程を問うので、その過程を記述できるようにしておきましょう。

国語

国語の問題では、受験生の皆さんが日ごろからことばに対してどのように接しているのか、さらに文章をどの程度まで深く読み、その内容を通して自身の思考を深めているのかを問います。語彙に関する問題では、ことばの知識を幅広く問うだけでなく、その知識をどのように使えるのかという語彙運用能力も問います。小説の読解問題では、場面構成や登場人物の心情を客観的に把握したうえで、それらを適切な表現によって記述する能力が必要となります。評論の読解問題では、文章の要旨や構成を整理しながら読み取り、提示されたテーマや筆者の考えを自分のことばで整理し、叙述していく文章表現力が必要となります。医進・サイエンス回の評論・論説文は、科学的な思考を問う文章を出題します。抽象度の高い文章が出題される可能性もありますが、科学的な思考を問う文章に慣れておくことがポイントです。

理科

第1回から第3回までの入試問題では、基礎的な知識をもとに、出題されている資料や条件などから考えることができるかどうかを問います。教科書や中学入試向けの参考書・問題集で扱っている題材についての出題が中心ですが、一般的な問題とは異なる視点から出題することがあります。医進・サイエンス回では、中学入試向けの教科書や参考書などではあまり扱っていない題材から多く出題します。知らない内容であっても解答できるよう会話文や文章を長めにとり、ていねいに説明を加えています。提示されている条件や結果などの情報を整理しながら実験や現象を捉えていくことが大切です。出題する順番は必ず、物理・化学・生物・地学の順です。自分の得意な分野から解答していきましょう。わからない問題があれば時間をかけすぎず、すべての問題に目を通すことをお勧めします。

社会

社会は地理・歴史・公民・論述の4分野から出題します。各分野とも、資料(史料)・グラフ・地図・写真資料から答えを読み取る問題が多くなっています。資料などを読み取る練習も必要ですが、このような問題は基本知識を前提としていますので、基本知識もしっかり勉強してください。最後の大問は論述問題です。論述問題は対策しにくい分野ではありません。

ますが、過去問題集などを活用してください。また、論述問題は書かないと点数にはなりません。誰でもいきなりは書けないので、「書く」練習を重ねることが大事です。書いたら、その内容が人に伝わるかどうか、保護者の方は塾の先生に添削をしてもらおうとよいと思います。

法政大学中学校

算数

中学校に入ってから必要とされる基礎的な学力を見るために、基本問題を中心に出题します。計算力をつけるのはもちろん、特殊算、速さ、割合、場合の数、図形問題など、あらゆる分野において、基本から標準レベルまでの問題を数多くこなしておいてください。なお、解答欄は答えのみを書く形式です。

国語

物語的文章と説明的文章の読解問題を、大問として2題出題します。選択肢問題が主流ですが、抜き出し問題や記述問題もあります。また、漢字の読み書き、慣用表現、接続詞・品詞の識別も出題します。書かれている内容を正確に読み取り、論理展開を押さえる演習をしておいてください。

理科

物理・化学・生物・地学のどの分野からも、基本的な問題を中心にバランス良く出題します。基礎的な知識を身につけるとともに、実験や観察の結果を確実に読み取り、考察できる力を養うようにしてください。また、自然や科学に関するいろいろな話題について、ふだんから関心を持つようにしてください。

社会

地理・歴史・公民の各分野から出題しますが、分野ごとの割合は必ずしも均等というわけではありません。特に、基礎的な学力を見ることを重視します。問題文や資料を確実に読み取って、自分の知識と結びつける力が必要です。また、資料や図表などからわかったことを記述する力も求められます。日ごろからニュースなどに関心を持って学習に取り組むようにしてください。

宝仙学園中学校 共学部理数インター

算数

「計算問題」「一行問題」「図形問題」「数学的思考力問題」という出題です。難問・奇問はないので、基礎力をつけて適切な解法を素早く引き出せる練習をしてください。また、「数学的思考力問題」は、基礎知識に加え、規則性・対称性などを利用した論理的な思考力を試す出題となっています。

国語

長文読解 2 題（説明的文章・物語的文章）、漢字の読み・書き、ことばの知識をそれぞれ出題します。文章の長さも設問数も標準程度なので、試験時間のなかで十分に解くことが可能です。しかし、論述解答を求めることもあるので、日々のトレーニングが大切です。文章中の表現を利用して解答をまとめるコツを、トレーニングによって身につけてきてください。筆者が何を伝えたいのか、ポイントを押さえて読む練習をしておきましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野より 4 題を出題する予定です。各大問には 5 問前後の小問を設けています。論述解答や図の完成などの出題もありますが、多くは標準的な内容なので、基礎的な知識を身につけ、問題集などで演習を繰り返して実力アップをめざすことが大切です。

社会

大問 2 題の構成で、ともに総合問題となります。試験時間内で十分に解けるように、記述問題を中心に、小問の数を減らしました。記述問題であっても、提示されている文章や図表などの資料を上手に活用すれば解答可能なので、あきらめずに挑戦してください。また、時事的な話題に関する出題があるので、日ごろからニュースに関心を持ち、新聞を読むなどすることが重要です。

三田国際学園中学校

算数

基本問題を3割程度、応用問題を3～4割、思考力問題を3～4割出題します。基本問題は計算問題が1題で、そのほかは一行問題となります。速さ・規則性・図形など幅広い範囲から出題します。応用問題は、融合問題やデータを読み取る問題です。思考力問題では、途中点を採用しており、記述が必要になります。傾向としては、与えられた問題文のなかから規則を読み取り、理論を構築し表現するようなものです。「なんでだろう？」という気持ちを大事に、その根拠を自分で探す学習を重ねることが大切です。

国語

文学的文章から1題、説明的文章から1題を出題します。説明的文章では、言語や思考に関するテーマが多くなっています。各大問では、文章を客観的に読解する力を問う問題を土台とし、記述は1～2問です。そのうえで、文学的文章では本文の表現の考察や意見論述を、説明的文章では、与えられた資料（文章・図・表・グラフ）をもとに自分の考えを構築し表現する思考問題を、それぞれ出題します。日ごろから、出合った文章に対して「どのような問題があるのか」「自分はどのように考えるか（どのように解決するのか）」などと、主体的に考える姿勢を大切にしてください。

理科

基本的に単元の偏りなく出題しますが、生物分野は生態や分類が頻出です。身近な現象を例に挙げ、知識や応用力を問う傾向にあるので、日常的な経験を科学的な視点でとらえるトレーニングを重ねましょう。また、グラフを読み取り、そこで得た情報を組み合わせて答える問題もよく出題しています。図を理解するだけでなく、得た情報をみずから図に表して整理する習慣をつけておきましょう。思考問題では、実験計画について問うことがあります。その際は、実験操作だけではなく、予想される結果とその考察についても記載することで、完全な正答とみなします。

社会

地理分野は、日本地理（一部に世界地理が含まれる場合もあります）が中心です。特に日本の産業・自然・文化などが中心になります。地図や雨温図などの資料に対する学習も行ってください。歴史分野に関しては、特定の時代や政治・経済・文化などの分野に偏ることなく、テーマ史という形式で横断的な出題をします。絵画や文化財などの資料問題もあるので、幅広い学習を心がけてください。公民分野は、政治・経済・国際関係・環境から出題します。時事に関する論述問題もあるので、ニュースや新聞で報じられていることをただ覚えるだけでなく、「なぜ起こったのか？」「なぜそのようになるのか？」「自分はどのように考える」など、社会の物事に対して「考える」姿勢を培ってください。

明治学院中学校

算数

①基礎的な学力（全範囲にくまなく取り組んでいるか）、②論理的な思考力（問題をていねいに読み解き、解答までの道筋を見いだせるか）、③問題に取り組む姿勢（途中で投げ出さずに、粘り強く立ち向かえるか）の三つの観点から、計算問題・文章問題・図形問題など幅広い範囲での作問に当たっています。

入試問題の構成は次のとおりです。大問 $\square 1$ では計算中心の小問を 8～10 題出題しています。大問 $\square 2$ 以降は例年、中間を 2～3 題と、さらに難度の高い大問を 2 題程度出題しています。解答は、答えのみを記入する方式です。単位は解答用紙に印刷されているので、記入する必要はありません。作図問題を出題しているため、定規・コンパス・分度器の準備が必要です。それらの基本的な使い方にも慣れておいてください。

国語

問題構成については、毎年、大幅な変更はなく、大問 $\square 1$ は長文の読解問題、大問 $\square 2$ 以降はさまざまな形式の問題、詩歌の鑑賞、敬語・慣用句や漢字などの知識問題を出題しています。長文読解の問題は、内容的にまとまりのある文章を出します。2020 年度は第 1 回と第 3 回は物語文から、第 2 回は随筆文から出題しました。選択問題、抜き出し問題を中心として、語句や接続詞、内容の理解を問う構成はこれまでと変わっていません。全体的に正答率は高く、物語の展開も理解できていました。2020 年度も抜き出し問題の正答率は高く、多くの受験生が問いの指示に従って解答できていましたが、正解箇所を見つけることができているのに、正確に抜き出せず、減点されてしまった答案もありました。抜き出す部分が長めであっても、ていねいに解答する練習をしてください。

そして、第 1 回では伝達を正確に理解し、内容を把握させる文章を連絡文形式で出題しました。文章から推測させる問いや、使い方の誤った箇所を訂正する問いもありました。第 2 回では、グラフのある文章を出しました。

また、例年出題している詩歌については、技法もしっかりと学習されており、鑑賞問題もよくできていました。その一方で、敬語の理解度が低い受験生がいます。敬語は、中学校に入学する前に、正しく使えるようになってほしい文法事項の一つです。日ごろの生活でも意識しながら、敬語の使い分けを学習していきましょう。

入試問題を通して、日常の生活のなかで必要とされる「国語力」を見ています。要点をつかむ力、流れのなかで重要な点を見抜く力をぜひ養ってください。

理科

2020 年度入試は、これまでと同様の小問集合の形式での出題を中心としつつ、知っていることでなくても文章やデータを読んで理解し、解答を導く問題も出題しました。これは、設問に対してただ単に知識を反射的に答えるだけではなく、数値や文章を読んで理解する力を、理科としても入試で問いたいという狙いがありました。

平均点（満点に対する割合）は第 2 回が約 55%、第 3 回が約 43%となりました。第 2 回に関しては平均点が大きく下がらず、多くの受験生がよく健闘してくれたものと考えてい

ます。一方、第3回に関しては平均点が低くなり、受験生にとってやや取り組みづらい内容であったと考えています。2021年度入試については、基礎的な知識を問う出題を基本としつつも、2020年度に出題した数値や文章を読み取る力を問うものを増やしていくことも検討しています。以下の点を参考に対策をしてください。

①教科書、問題集、資料集などを活用し、受験に向けて基礎的で重要な事項を整理するように学習を進めてください。

②択一問題が中心ですが、語句や数値を解答してもらう出題もあります。教科書や資料集などに漢字で書かれている語句は、しっかりと漢字で書けるように練習してください。また、濃度（濃さ）や速さ、天びんやてこのつり合いなどの基礎的な計算はできるようにしておきましょう。

③数値や文章を読み解く出題に取り組むうえでは、それらを読み取って、根気強く考える力が試されます。その力を身につけるためには、知識の暗記だけではなく、一定量の練習も必要です。受験勉強のなかで、教科を超えて練習を積んでおいてほしいと思います。また、試験当日は解答時間の配分を考えながら取り組めるように練習をしておきましょう。月の満ち欠けや星座、動植物の様子などは、季節の移り変わりのなかで体感できるものも多いです。日々の生活における自然現象に触れる体験を大切にしてほしいと思います。それに加えて、自然科学に関する時事などにも、自然科学に親しみや関心を持ち、受験に向けた学習につなげてほしいというのが教科としての願いです。

社会

問題数はほぼ例年どおりで、地理・歴史・公民の各分野から出題します。各分野の割合も2020年度に準じます。前回の入試で目立った漢字の間違ひは、「藤原頼通」「紫式部」「徴用工」「和同開珎」「北里柴三郎」などでした。都道府県名や県庁所在地、人名や歴史用語などは、きちんと書けるようにしましょう。

例年、説明を求める問題を出しています。知識の丸暗記にとどまらず、出来事の内容・特徴・原因・結果などを理解して、説明できるようにしましょう。

地理分野では、新聞記事を読んでグラフや表の読み取りをする問題を出題しました。雨温図や都道府県別生産量の割合の円グラフなどは、例年出題していますので、慣れておくとよいでしょう。

地理分野でも歴史分野でも、地図上の位置を問う問題がありますが、それがよくわからず、苦手な人も多いと聞きます。都道府県や都市・地域の位置を、地図上で理解しておきましょう。地形図の読み取りも例年出題していますが、2020年度はそれができない受験生が目立ちました。等高線や地図記号、縮尺に慣れておきましょう。

歴史分野では、年代順に並べかえる問題や、指定された時代に当てはまる事項を選ぶ問題なども出題しました。歴史的事項を年代順に理解しておく必要があります。

公民分野やそのほかの分野でも、時事問題がありました。消費税増税、香港のデモ、訪日外国人数の増加、三・一独立運動、新札の発行決定などです。日ごろからニュースに親しんでおきましょう。また、新聞記事からの出題もありました。難しい文章かもしれませんが、全部がわからなくても、空欄や下線部の前後をていねいに読めば、解答のヒントが見つかるはずです。

明治大学付属明治中学校

算数

①は解答のみを記入します。②以降の問題は、すべて式や考え方も書く記述式の設問です。図や表でも、ことばや方程式でも結構です。また、②以降は解答のみでは点を与えません。逆に、解答が間違っている場合でも、式が合っていれば部分点を与えることも多くあります。

国語

通常は長文 1～2 題です。漢字の書き取りや日本語に関する知識問題（慣用句・ことわざなど）も出題します。読解問題は記述式の設問が多くなっています。2021 年度は、文法問題は範囲外となります。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野からまんべんなく出題します。いずれも実験や観察、身近な事象からの出題が多くなっています。物理や化学では計算問題も、生物では記述式問題もよく出題します。

社会

地理・歴史・公民の各分野に加え、時事問題もよく出題します。記述・論述形式での出題もあります。地名・人名・用語は、教科書で漢字が使われているものは、解答でも漢字で書かれていないと、原則として不正解とします。

目白研心中学校

算数

計算問題（工夫して解く問題も含む）や基本的な一行問題と、濃度・場合の数・割合・速さに関する問題、図形（平面・空間）などの応用問題を出題しています。計算力と標準的な問題の解法を問う出題がほとんどなので、ふだんから計算問題と典型的な文章題を繰り返し練習してください。基本的な問題が解ければ合格に、応用問題が解ければ特待生に届きます。また、2021年度より算数一科目の「算数特別入試」を導入します。日本でいちばん受験生にやさしい入試です。学校ホームページにあるサンプル問題をぜひご覧ください。

国語

文学的文章と説明的文章から成る2題の長文読解問題と、漢字の読み書き、日常使われる慣用句や文法、ことばの意味を問う問題などを出題しています。ふだんから本を読み、語句をたくさん覚えるとともに、読解力をつけるようにしてください。

理科

「運動とエネルギー」「物質と変化」「生物と環境」「地球と宇宙」の各分野からまんべんなく出題しています。実験・観察をもとにした問題も多くあります。ふだんから基本的な問題演習や実験の確認などを行ってください。

社会

地理的分野からは日本の各地域について出題します。歴史的分野は日本の歴史が中心です。公民的分野は三権（立法・司法・行政）、憲法などについて出題します。解答を漢字で正しく書けるようにしてください。

英語（スピーチおよびQ&A入試）

コミュニケーション能力を測る試験です。与えられたテーマに対する自分の答えと、それを支持する具体的な理由を二つ以上盛り込んだ原稿をあらかじめ準備してください。試験当日にその原稿を提出し、スピーチを行ってもらいます。また、スピーチの内容に関することと、受験生自身に関することを英語で質問しますので、英語で答えてください。

※詳細は本校ホームページでご確認ください。